

2014年第9回チャイナエイド中国上海福祉機器展が5月26日〜28日に上海世博覧館で行われました。

日系福祉関連企業も介護サービスから福祉機器・福祉車両・日用品まで20数社出展し、参加者は3万人以上。中国での福祉に対する関心が去年以上に高まり、大いに賑わった展示会でした。

当社のブースも日本からの応援も含め10数名で3日間対応し、上海ヘルパー学校、今年オープンの上海デザインサービス、リハビリ、認知症対応等の展示コーナーを設置したところ、沢山の中国福祉関連企業が訪れました。

尖閣諸島問題時に出展し

た時はパンフレットで頭を叩かれたスタッフや日系企業というだけで文句を言われ、大変な時期でした。今回は日中政治問題もいろいろある中でも福祉に対する中国の方々の見方は世界でも高齢化が進んだ日本の知識や技術を学ぼうと感じました。日本が歩んできた高齢化対策、福祉、健康、社会保障制度などあらゆる質問を受けました。

中国では9073服務計画でもわかるように90%を在宅サービス、7%を民間老人ホーム、3%を政府系施設で在宅サービスの強化をメインに進められています。その体制は道半ばの状況です。

中国企業も景気減速と不動産バブル崩壊が叫ばれる

中国が福祉分野の中心に

なか、次に商機がある福祉分野に参入するデベロッパ、保険会社、不動産業などあらゆる中国企業が今回の展示会で情報収集に励んでいます。

今回のフェアでも日系企業に対するアプローチも多かったのですが、即断即決が商売の基本の中国側と、じっくり相手を見定めてからパートナーを見極める日系企業とのマッチングはなかなか簡単にはできるものでもありません。日中合弁会社の9割は失敗している現状を考えると日本側の警戒

ゲストハウス社長
松山英樹



中国の 高齢者 マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

心もわからないでもありません。それでも老人大国中国が今後福祉分野の発展の中心となるのは間違いない事実です。中国だけではなく高齢化が急速に進行するアジア各国で日本の福祉分野の商機は益々広がるでしょう。